

群 教 七	G10 - 01
	令5.284集
	道徳

道徳的価値を主体的に捉え、自己の生き方について考えをもつことができる児童の育成

——道徳的な問題を自分事として捉え、

進んで考えを伝え合う活動を通して——

特別研修員 阿久澤 滯

I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編では、「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図るものである。」とあり、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方についての考えを深めることの重要性が指摘されている。

研究協力校（以下、協力校）の児童は、明るく素直な児童が多く、自分の好きなことに対して一生懸命になって取り組める児童が多い。一方、関心がない事柄に対して自分の思いを表現することや、道徳的な問題を自分事として捉えたりすることに課題が見られる。

そこで、自分の考えを表現したり広げたりできるように、アンケートと心情メーターの結果から、道徳的な問題を自分事として捉えるとともに、ICT機器を活用しながら児童が進んで話し合いたい相手を決めて交流していく。道徳的な問題を自分事として捉え、多面的・多角的に考えを広げ、交流する活動を繰り返すことで、道徳的価値に気づき、自己の生き方について考えをもつことができる児童を育成したいと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



道徳的な成長の実感

道徳的価値を主体的に捉え、自己の生き方について考えをもつことができる児童

2 授業改善に向けた手立て

明るく素直だが、関心がない事柄に対して自分の思いを表現することや、道徳的な問題を自分事として捉えたりすることに課題が見られる児童の実態を踏まえ、研究テーマ「道徳的価値を主体的に捉え、自己の生き方について考えをもつことができる児童の育成」に迫るため、以下の手立てを考えた。

【手立て1】道徳的な問題を自分事として捉える活動の工夫

事前アンケートと心情メーターの活用（導入と振り返り）

【手立て2】進んで考えを伝え合う活動の工夫

立場が分かるICT機器の活用と、話し合いたい相手を決めて交流する活動

【手立て1】について

導入の場面において、事前実施した本時で扱う道徳的価値に関わるアンケートと心情メーターの結果を掲示し、問題意識をもたせ、道徳的な問題を自分事として捉える時間を設定する。振り返りでは、これからの自分の生き方について自己と向き合う時間となるように、導入で扱った心情メーターに再度取り組み、議論した内容に対し、これまでの自分（1回目の心情メーター）を振り返り、これからの自分（2回目の心情メーター）の生き方について考える時間を確保する。

【手立て2】について

展開の場面において、中心発問に対する考えをICT機器のカラーテキストを活用して可視化する。立場や気持ちが視覚的に分かりやすくなるため、自然と児童の考えを全体で共有することができる。同じ意見の人や違う意見の人が画面上ですぐに分かるため、意見交流のきっかけをつくることができる。画面を見ながら自由に話し合いたい相手を決めるため、より多様な意見に触れることができる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 事前のアンケートや心情メーターの結果を提示した時、前のめりになっている児童や、結果について驚いたり、感じたことを発言したりしている児童が見られたことから、自分事として捉え、道徳的価値について興味・関心を高めることができたと言える。
- 意見交流の場面では、自分の立場をカラーテキストに分けたことにより、立場が視覚的に分かりやすくなっていた。交流したい相手を判断しながら、進んで意見交流することができた。自分の意見を伝えるのが苦手な児童も意欲的に活動できた。
- 導入と振り返りに心情メーターを扱うことで、授業前と授業後での道徳的価値に対する考えの変化や、心情メーターをどこまで動かしたらよいか迷う児童も多く見られた。自分事として道徳的価値を捉え、自己の生き方に生かすきっかけにつながったと感じる。

2 課題

- 伝え合う活動の時間に、進んで自分の考えを伝えることはできたが、対話をつないだり、広げたりすることを意識した問い掛けが必要になる。伝え合う際の視点を明確にすることで、より活発な意見交流の時間になる。

実践例

- 1 主題名 きまりを生むもの 内容項目 C- (12) 規則の尊重 (第3学年・2学期)
教材名 「心の優先席」 (出典: 「ゆたかな心」 光村書院)

2 本主題について

(1) ねらいとする道徳的価値について

児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として、様々な規範を身に付けていくことでもある。そのためにも、約束や法、きまりを進んで守ることができるようにすることが必要である。中学年になると、気の合う仲間や集団の中にきまりをつくり、自分たちの決めたことを大切にしようとする傾向がある。一方で、社会のきまりや約束、公共物や公共の場所との関わりについて考えることは少ない。身近な社会集団における人間関係を形成する上でも、自分の思いのままに行動するのではなく、集団の向上のために守らなければならない約束やきまりがあることを十分に考え、進んできまりを守ろうとする道徳的心情を育てることが大切である。

(2) 児童の実態について

協力校の児童は単学級学年のため、男女の仲もよく、協力しながら生活することができる。明るく素直な児童が多く、自分の好きなことに対しては一生懸命になって取り組める。一方で、関心がない事柄に対して自分の思いを表現することや、道徳的な問題を自分事として捉えることに課題が見られる。集団生活を送る中で約束やきまりが大切であり、守るべきものだと分かっているにもかかわらず、自分中心で物事を考えてしまい、守れない児童も多くいる。また、社会のきまりや公共物との関わりについて深く考えた経験も少ない。このことからきまりについての道徳的な問題を自分事として捉え、自分だけでなく相手や周りの立場になって考え、きまりを守ることの大切さや意義について気付かせ、きまりを守ることでよりよい生活が成り立つことを理解させたい。

(3) 教材について

本教材は、優先席について複数の意見を比較し、みんなが気持ちよく生活するきまりと、それを守ろうとすることのよさを考える教材である。そわそわした思いで過ごすバスの人たちの気持ちに共感させつつ、優先席に対する複数の考え方に対して、自分事として捉え考えることで、優先席に対する多様な考え方に気付くことができる教材である。きまりは誰の何を大切にすることかを考えさせることで、社会のきまりを大切にすることは、人々が安心して暮らしていきたいという心を大切にすることだと理解するのに適した教材である。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時では道徳的価値を主体的に捉え、自己の生き方について考えをもつことができる児童の育成にあたり、以下の二つの手立てを具体化した。

【手立て1】道徳的な問題を自分事として捉える活動の工夫

- ・導入ではきまりに対する児童の実態が把握できる事前アンケートや、きまりを守ることについての心情メーターの結果から、日常生活における道徳的な問題を自分事として捉える時間を設定する。
- ・振り返りでは、本時で扱った道徳的価値について、もう一度心情メーターに取り組み、これからの自分の生き方について自分事として考える時間を設定する。

【手立て2】進んで考えを伝え合う活動の工夫

- ・発問に対して優先席に対する考えを三つに分けて「優先席というきまりだから」は青色、「近くににいる人がゆずる」は黄色、「ゆずりたい人がゆずる」は赤色に変えて意思表示し、視覚的に立場を明確にする。根拠をもって意見交流に参加できるようにワークシートに選んだ理由を記入させる。
- ・多様な意見に触れることができるように、話し合いたい相手を判断しながら進んで意見交流を行う。その際、同じ考えや違う考えの人など、話す相手を変えて交流を行うよう促す。

4 授業の実際

導入 【手立て1】 道徳的な問題を自分事として捉える活動の工夫

導入では、事前にとったアンケートと心情メーターの結果から、本時で扱う道徳的な問題や道徳的価値を自分事として捉える活動を行った。

アンケート結果から「きまりを守れなかったことはありますか」に対し、10人の児童がきまりを守れなかった経験があると答えた(図1)。一方で16人全員がきまりは必要だと答えている。また、心情メーターの結果から「守れるときもあるけど、守れない」や「家のきまりは守っている」など、自分の結果の説明をする発言が見られ、道徳的な問題や道徳的価値を自分の経験や生活と結び付けながら自分事として考えることができたと考えられる。

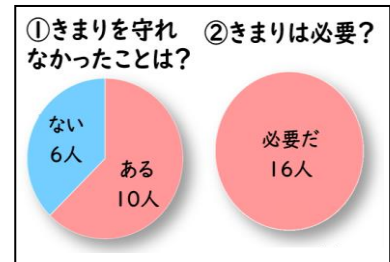


図1 アンケートの結果

展開 【手立て2】 進んで考えを伝え合う活動の工夫

展開では、中心発問「あなたの考えは3人の中で誰に近いですか」では、1人1台端末のアプリケーションを活用して、優先席というきまりだから：青色、近くにいる人にゆずる：黄色、ゆずりたい人がゆずる：赤色の3種類から一つのテキスト選び、自分の立場を視覚的に示すことができた。また、ワークシートにはそう思った理由を記入させ、根拠をもって交流活動に入れるようにした。次に大型モニタに映し出された全員のテキスト(図2)を見て、話し合いたい相手のところに行って意見交流をした。意見交流では、自分と同じ色や違う色のテキストの友達と数回交流を行い、本時で扱う道徳的価値について、多様な見方や考え方に触れることができた。話し合いたい相手を自分で決めるため、自分の考えを話すことが苦手な児童も気楽に話せる相手を選び、進んで交流する姿を見ることができた(図3)。交流の際には、必ず「何でそう思ったの?」と相手に問い返すことを約束し、多様な意見を交流する場となった。



図2 大型モニタに映し出された意見



図3 進んで交流する姿

- S1：きまりはあるけど、おばあさんが大変だから近くにいる人がゆずったほうがよいと思う。
 S2：でもさ、ゆずりたい人が席から遠かったらどうする？
 S1：えー、ゆずってくれと思う。
 S2：何でそう思ったの？
 S1：私はおばあさんに対してやさしくすると思ったから。次は青色の人にも聞いてみよう。

その後、座席を中央に向かい合わせ、交流した意見や気になる意見について全体で共有する時間をとった(図4)。児童の意見として、「ゆずりたいと思う人がゆずる」「近くに座っている人がゆずる」の意見が圧倒的に多く、「おばあさんが大変だからゆずりたい」という相手の気持ちを考えた発言が見られた。「電車の中にいる人が困るからきまりは必要だと思う」という意見に対して「何できまりがあったほうがいいのか」という児童の質問から意見交流が活発になった。児童の本音を引き出し、道徳的価値に迫ることができるよう教師による補助発問を入れた。「ゆずりたい人がいればきまりはなくてもよいのでは?」の発問によって、児童のきまりに対する考えが揺れ、もやもやする時間となった。「みんなが電車の中



図4 全体で共有する時間

にいたらゆずれるの?」「きまりがなくて大丈夫かな?」などの問い返しを何度も行い、席をゆずったほうがよいと思っていた児童も、「ゆずりたいけどきまりはあったほうがよいのかな?」など、気持ち揺れるような姿も見られた。多様な考えに触れたことで「きまりはみんなが安心して電車に乗るためにある」という発言につながり、道徳的価値の理解が深まった。

終末 手立て1で活用した心情メーターに再び取り組む

終末では、手立て2で多様な意見に触れて深めた道徳的価値について、これまでの自分とこれからの自分の生き方について考えられるように、再び心情メーターに取り組む、自己と向き合う時間を確保した。事前に取り組んだ1回目の心情メーターの結果と比較できるような形式にして取り組ませた。1回目と同様に「きまりを守る・守れない」で実施した結果、きまりを守る割合が増えた児童が多かった。児童Aは心情メーターの変化について、振り返りに「これまできまりを守っていたけど、より守ろうという気持ちが強くなった」と気持ちの変化について記述していた。児童Bは、「守れない気持ちが強かったが、友達との意見交流できまりを守る大切さに気づき、守っていききたい」という気持ちの変化を心情メーターに表していた(図5)。また、ワークシートには「考えたこと、分かったこと」「これまでの自分を見つめ、これから生かしていきたいこと」という視点で振り返らせた。児童Bの振り返りには、「今日の学習できまりの大切さが分かった。これまできまりを守れない時もあったけど、みんなが安心して過ごすためにきまりがあることが分かった。これからはきまりを守って生活していきたい」と、これまでの自分を振り返り、これからの自分について記述する姿から、道徳的な問題を自分事として捉え、自己の生き方についての考えをもつことにつながることができた。

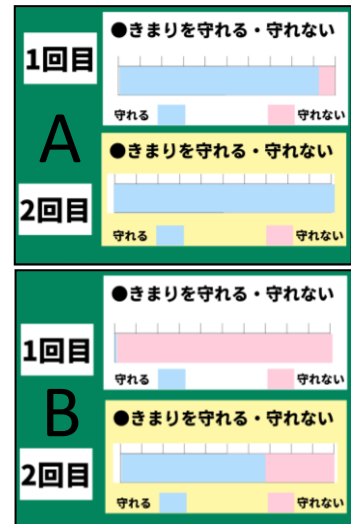


図5 児童Aと児童Bの心情メーター

5 考察

導入では、事前に扱ったアンケートと心情メーターの結果を可視化したことで、児童が前のめりになって結果を見ていたり、発言したりする様子を見ることができた。児童の見えない気持ちが心情メーターに表れていたことで、児童の興味・関心を高めるきっかけとなり、本時で扱う道徳的な問題を自分事として捉え、考えることができた。

展開では、大型モニタに映し出された児童の考えを見ながら、話し合いたい相手を決めて、繰り返し交流したことで、安心して考えを話す姿が見られた。自分の考えを表現するのが苦手な児童が、自信をもって発言する姿も見られた。話し合いたい相手と複数人で集まって話し合う様子から、自分の考えを素直に話したり、違う考えに対して問い返したりする活動が自然に行われており、児童たちの間で道徳的な問題について議論する時間につながることができた。全体で多様な考えを共有する時間に、道徳的価値に迫るための揺さぶる発問や問い返しを何度もしたことで、児童の考えに迷いが生じたり、自分と照らし合わせて考えたりする様子も見られた。

終末に行った心情メーターに取り組む時間には、何度もメーターを動かして考えたり、なかなかメーターに気持ちを表現できなかつたりする児童が多かった。児童の見えない気持ちや迷いが表れており、道徳的な問題を自分事として捉え、考えることができた。自己の生き方を振り返ったり、生かそうとしたりする振り返りの記述からも、道徳的価値を自分の生き方に生かそうとする児童が増えてきたと感じる。道徳の授業の翌日には、道徳的価値に対して自己の生き方に生かそうとしている児童の振り返りをいくつか取り上げ、教室に掲示している。授業だけでなく、こういった事後の活動を取り入れることで、自己の生き方を見つめ直すきっかけにもなると考える。